

| | |
|--------------|---|
| Title | イスパニア文化圏におけるPájaro de Verdad (真実の鳥) 型の昔話について |
| Author(s) | 三原, 幸久 |
| Citation | Estudios Hispánicos. 1973, 3, p. 98-128 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/97876 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

イスパニア文化圏における Pájaro de Verdad (真実の鳥) 型の昔話について

三 原 幸 久

旧約出エジプト記にあるモーセや、ギリシア神話の英雄ペルセウスのように、秀れた国王や民族の指導者には、幼時、川や海に捨てられ、身分賤しい環境で育てられた伝説がつきまどっている。柳田国男先生が「貴種流浪譚」と名づけられたこの種の説話では、欧州でもいくつかの型が見られるが、Aarne-Thompson の *The Types of the Folktale* で707番に *Three Golden Sons* として掲載されている昔話は特に有名である¹⁾。これは Wagner の歌劇 *Lohengrin* や Pushkin の「サルタン王物語」として記載文芸の世界にしばしば登場しているものに近く、イスパニアでは普通 *Pájaro de Verdad* または *Tres Hermanas Envidiosas* と呼ばれ、かなりよく知られている。

この型の類話は、前記索引によればアイルランド92話、フィンランド73話、リニアニア65話、トルコ55話、ロシア50話を始め、全世界で約800話の類話の存在が記されているが、この索引にのっていない地域²⁾、およびこの索引以降に採集された資料を考えると³⁾、恐らく採集例が千話を越える世界的な分布をもつ昔話の一つであろう。

しかし、これらの多くの類話についてみると、それぞれの民族で特色あるモチーフの附加や、モチーフの配列に差異のあることは当然である。これから、イスパニア、ポルトガル、イベロアメリカを含めたイスパニア文化圏におけるこの型の昔話の分布と特色について若干のべてみたい。

まず、比較的良好に整理されていると考えられる Extremadura で採集された類話の一つを全訳してみよう (Curiel Merchán : *Cuentos Extremeños*, 1944, pp. 63~67)。なお各モチーフの次に記した記号と名称は Stith Thompson : *Motif-Index of Folk-Literature. A Classification of Narrative*

Elements in Folktales, Ballads, Myths, Fables, Mediaeval Romances, Exempla, Fabliaux, Jest-Books and Local Legends. 1955—8, 6 vols., Bloomington より筆者が検索したものである。

サルタンの三人のむすこ (Los Tres Hijos del Sultán)

さて皆さん、これは若い三人の娘のお話です。三人は自分の家の戸口で裁縫をしながら、こんな会話をかわしていました。先ず、長女がいました。「わたしはサルタンのパン職人となら喜んで結婚するわ、なぜって、もし、そうなったら、わたしとわたしの子供はパンに不自由しないから」。

次女がいました。「それじゃわたしはサルタンの漁師と結婚したいな。そうすれば、わたしとわたしの子供はいつも新鮮な魚にありつけるし、決しておながすくっていいことはないでしょうからね」

三女がいました。「わたしはサルタンと結婚したいわ。あの方は若くして勇ましく、とても善良な方だそうよ」(N201少女は王との結婚を望み、実現する)

ちょうどそこをサルタンが通りかかっていた。そしてこの三人姉妹の会話と望みを耳にして、彼女らに近づいていました。「お前たちの望みを叶えてつかわそう。お前たちは余の宮殿のパン職人と漁師と結婚しなさい。また、余はお前と結婚しよう」といちばん下の妹に向かっていわれました。(N455.4王は娘たちの会話を立聞きし実現させる)

数日後、豪華な結婚式とにぎやかな宴会が数日間にわたってもよおされました。(L50妹の勝利；L162妹の王との結婚)

しかしふたりの姉は妹がサルタンと結婚し、自分たちがパン職人や漁師と結婚したことを忘れることができません。というのも、自分たちもサルタンと結婚したいといわなかったことが残念でならないのです。このため、今は王妃になっている妹をたいそうねたみ、憎みました。幸せのうちに時が過ぎ去りました。そして妹は美しい男の子を生まれました。ふたりの姉は、この子をうばい、川に投げこんで、子供のかわりに用意しておいた犬をベッドにおいておきました。(K2212姉の裏切り；S142水に流される人)

それからサルタンの所に進み出て「陛下のお妃が犬をお生みになりました」と話しました。(K2110.1中傷される妻；K2115動物を産んだという

中傷)サルタンは非常に怒りましたが、妻に罪のないことを認めてゆるしました。

翌年、王妃はまた男の子をもうけました。姉たちはその子のかわりにライオンの子を置いておき、また生まれた子を川に投げ入れ、サルタンには「今度、王妃のお産みになったのはライオンでした」といいました。サルタンは大そう不愉快な気持ちになりましたが、前と同じく妻をゆるしました。次の年王妃は女の子を産みましたが、それも川に捨てられ、その子のかわりにくさった肉の一片がおかれ、そのことが王に知らされました。王はそれを見て、相続人を持たないらだちで腹を立ててしまいました。一方罪のない王妃は、自分をきらい姉の犠牲者でしたが、自分の姉が自分を憎んでいることはもとより、こんな悪事をたくらんだことなど、夢にも気づきませんでした。

サルタンのふたりの男の子とひとりの女の子は川に投げこまれた時、三人共慈悲深い粉ひき夫婦に救われ、夫婦はその子供たちを親のような愛情で育てました。(R131拾われた捨子；R131.2子供を粉ひきが救う)善良な粉ひきの妻が死ぬと、老いた粉ひきは大きなショックを受け、自分も近いうちに死ぬだろうと感じて、寝床の回りに子供を集め、こう話しました。

「わしのむすこたちや。わしはじきに死ぬ。だが、その前にお前たちの知らないことについて話しておこう。わしはお前たちを自分の子供のように育てて来たし、またかわいく思っているが、実をいうと、お前たちはわしの子ではなく、ある偉いお方のご子息じゃ。お前たちの父王のかたきがお前たちを川に捨てたので、救ったのだ。だが捨てた連中はお前たちの生きていることを知らない。わしが死んでから、お前たちが幸福になろうと思えば『話しかける鳥』『歌う木』そして『美しくする水』のありかを捜しに行きなさい」こうって善良な粉ひきはなくなりました。

愛情をこめて育てられた三人の子供はかれを埋め、数日が過ぎました。長男がなくなった義父の命令を遂行しようとしてました。出かけて行く時、光り輝く刀を手を持って、妹にそれを渡し、次のようにいいました。

「この刀を大切に持っている、もしこの光がそのままなら、わたしが生きており、勝っている印だ。それがくもることがあったら、失敗したか、死んだのだと思ってくれ」(E761^{ライフ トゥケン}生命指標；E761.4.1生命指標としてのナイフ)

かれは鳥と木と水を捜しに元気よく旅立ちました。(H1320不思議なもの
の搜索; H1331.1真実の鳥の搜索; H1333.1.1歌う木の搜索; H1321.1
生命の水の搜索) 少しく行くと、白いひげを貯えた老人に会いました。その
老人に捜している物を知らないかと尋ねましたが、老人は何も答えてくれ
ません。若者は怒って老人のひげを切り落としました。(Q2親切者と不
親切者)すると老人は罰としてかれにボールを投げつけました。するとそ
れは大きくなって山になり、若者は口を聞かたくさんの黒い石に回りをと
り囲まれました。石は若者に罵声を浴びせかけたので、その石に答えよう
として後ろをふり向くと、すぐさまかれもまた黒い石ころになってしま
いました。(D231人の石への変身)

兄のるすのあいだ、妹は毎日刀を見ていました。ある日、刀のつやがな
くなったので、何か悪い事が兄の身に生じたのではないかと思い、悲しく
なって泣き始めました。すると、次の兄が妹を慰めて、自分が鳥と木と水
を捜しに行くといいました。そして兄はロザリオを妹に与え、「これが毎
日抵抗なく動けば、わたしが生きており、勝っている印だ。もし玉が動か
なくなったら、それはわたしに何か悪い事が起ったか死んだ証拠だよ」と
いいました。(E761.4.8生命指標としてのロザリオ)

出発して、どんどん歩いて行くと、前と同じひげの老人に出会いま
した。かれも老人に尋ね、以下兄と同じような事が起って黒い石に変えられ
ました。

妹はある日ロザリオが動かなくなったので、兄に何か悪い事が起ったと
思いました。そこで、ふたりの兄と、鳥と木と水を捜すため、勇気を出し
て元気に出発しました。また白いひげの老人に会いました。(N825.3老人
の助力者)兄と同じように質問しましたが、老人は知らぬ顔をしてボール
を投げると、それは黒い石でいっばいの山に変わり、石は少女をのしり
続けました。しかし彼女は勇敢であったので、そんなのしりを相手にせ
ず、後ろもふり向きませんでした。常に前方ばかり注意していると、前
の方のあまり遠くない所に葉の茂った木があり、その枝に止まっている鳥
と、木の根先の方に水でいっばいになったうつわを見つけました。彼女は
これこそ求めていたものだと思います、近づきました。すぐに鳥を捕えよう
とすると、鳥は「つかまえるな、でないと殺してやる」といいました。彼女
はそれにかまわず鳥をつかまえ、木の枝を切り、水のうつわも取り上げま

した。そして、これら全部を持って、黒い石の山に行くと、もう黒い石はののしることをやめていました。うつわの水で黒い石をぬらすと、それは全て人間にもどりました。その中にふたりの兄もいました。(R158妹による兄の救助) 兄たちはとても喜んで妹を抱擁し、口づけしました。三人の兄妹は満足して家路につき、家でしばらくの間、幸福に暮していました。水槽の中にうつわの水をあけると、その水はいつもきれいに澄み切っていました。みんなが顔を洗うと、とてもきれいになりました。(D1337.1.2 美しくする水)

ある日、狩りから帰りがけのサルタンが通りかかりました。汗ばみ、ほこりをかぶっていらしたので、体を清めたく思っ水をもらいに立ち寄り、あのガラスの水槽の水をもらいました。サルタンが体を清めると、今までなかったほどきれいになり若返りました。(D1338.1.2 若返りの水) そこで大そうこの水が気に入り、それからというものは、毎日その水槽の水で体を清めるため、兄弟の所にやって来ました。そうして、その時はいつも兄弟としばらく雑談しているうちに、三人をととても好きになりました。

ある日、サルタンが体を清めっていると、木の枝で鳥が歌っていましたが、やがてサルタンにこう語りかけました。

「あなたの善良な奥さんが犬やライオンやくさった肉の子供をあなたに産んだと思っているのですか。あなたの本当の子供たちは目の前にいるこの三人ですよ。三人は母親の悪い義理の姉によって川に捨てられました。でも善良な粉ひきに救われ、本当の子供のように育てられました。三人をよく見なさい。そうすれば自分の子供であることが納得できるでしょう。上のふたりはあなたに似ており、下の少女は母親に似ているからです」(B131.2 鳥が裏切りをあばく) サルタンはしっかりとかれらを見ました。そしてかれらがむすこだとわかりました。サルタンは三人を抱擁し、鳥、木、水といっしょに自分の王宮に連れて帰りました。(S451 夫婦子供は再び共に生活) 鳥と木と水は大そう役に立ちました。

その善良な母親は三人の成人した子供たちを見てどんなに喜んだことでしょう。またあの邪悪な姉たちは、自分たちの計画が失敗に終わったのを知ってどれほど悲しみ、憎しみをいだいたことでしょうか。その邪悪な姉たちは当然受けるべき罰として、川のいちばん深い所へ首に大きな石をつけ

て投げこまれました。(Q261罰せられた裏切り) もう二度と浮かび上がる
ことのないようにするためです。サルタンと妻と子供たちは末長く満足し
て平和に暮しました。この話を聞くあなたも幸福に暮すでしょう。

コロリン・ゴロラド (Colorín Colorado)

この話はおしまい (que mi cuento se ha acabado)

(Cáceres, Madroñera の生徒 Antonio Moriñigo Bernal が語る)

この型の類話のイスパニヤ的な特徴を求める前に、先ず世界の数多くの
類話に見られるこの型の構成要素(ある一つの昔話がこの型の類話である
と認定されるために必要なモチーフ)と、それぞれの要素の歴史的前後関
係を見てみよう。グリム昔話集の膨大な註解書 *Anmerkungen zu den
Kinder und Hausmärchen der Brüder Grimm* (グリム兄弟の児童と家庭
のための昔話への註釈) を著した Johannes Bolte と George Polivka は
グリム昔話集第96話「三羽の小鳥 (De drei Vügelkens)」の註解で、こ
の型の昔話は次の3つの構成要素を持っていると書いている。

A. うぬばれやの娘たち。三人の姉妹が話し合っており、各人が王やそ
の他の人物と結婚できた時には、一定のことをしてあげると約束する。末
娘は王と結婚できたら、額に星のある、または黄金の髪の毛の、またはその他
の特徴を持った3人の(この数は1~7人までである)子供を産むと約束す
る。王は末娘と結婚し、娘は約束を果たす。

B. 子供のとりかえ、嫉妬した姉たちは赤子を盗み、犬、猫その他の動
物と入れかえ、子供は箱に入れて川に投げ捨てる。親切な男が拾い育て
る。母親は動物を産んだという理由で罰せられる。

C. 三つの呪物の探索。鳥、木、水の三つの呪物の探索。子供は超自然
者の援助をえて父親を捜しに出発する。超自然者のすすめにより、または
母の姉たちの求めに応じて三つの呪物を手に入れる。鳥が真実を告げ知ら
せ、王は自分のむすこであることを知り、母親を監禁場所から救い出す。

これを Aarne-Thompson の「昔話の型」の解説にあるモチーフと比較
すればAはI(夫についての希望)、BはII(中傷された妻)、CはIII(子供
の冒険)とIV(子供の復帰)に相当する。

全世界の類話をこの三要素に分解してみると、必ずしも全ての地域
の全ての類話が三要素を完備していないことに気がつく。むしろ Bolte-

Polívka のこの三要素のどれを欠くかという点に地域的 特徴が見いだされ、伝播の前後、系統を調べる指標となりうるようである。

先ずAについていえば、この要素を欠く類話は非常に多い。たとえばインドの類話ではA (Thompson-Roberts のリスト⁴⁾ではI (e)に相当する)のある類話は44話中ただの3話で約7%にしかならない。アフリカの類話では9話中1話しかなく⁵⁾、日本では、この型の日本的な形である「金の茄子」(日本昔話集成第522番)では25話中1話もAを持たない。またこのモチーフは日本の「山田白滝(三人空蔵)」型昔話(集成第133番)のように全く異った昔話の導入部になっていることもある。この意味でAが当初からこの型の昔話に固有な要素であったか否かは大いに疑問がある。この要素は欧州や回教圏の類話では高い率で現われているところから、この地域に伝播された後、結びついた要素といえるだろう。

Bの部分はあらゆる類話に普遍的に見られるもので、これこそこの昔話の不可欠な要素というべきものであろう。

Cの部分は、回教圏やスラブ族、アフリカ、日本等では含まれておらず、西欧、特にロマンス語圏で特に発達したモチーフだと考えられ、最も遅れて、隣接の昔話—たとえば、「黄金の鳥を捜索(火の鳥)(A T550)」「父の治療薬の捜索(A T551)」, わが国の「奈良梨採り(集成76)」のような—から借りて導入された要素であると考えられる。

今これらの特徴を考慮に入れて、世界の類話の地域的亜型(Local Sub-type)を発生順に設定するとすれば次のようになるであろう。

(1) インド・東洋・アフリカ型 Bのみ

子供に外形的特徴なし。いくつかの類話では、子供が死んで木や草花に変身する。(Singing-Bone 型との接触か?) 馬鹿げたことをいって父王を反省させ、自分が子供であることを知らせる。一餌を食べ水を飲む木馬のモチーフ(インド)や尻をしない人が植えると黄金のなる木のモチーフ(日本)など—

(2) イスラム圏・スラブ型 A+B

子供は双生児で、黄金の髪がその子供の特徴。いくつかの類話では子供は獣、鳥に変身する。真実は超自然的なものか、子供自身によって父親に告げられる。

(3) ロマンス語型 A+B+C

子供は2～7人、3人が特に多い。額の星や、太陽と月の印がその子供の特徴。真実は鳥によって告げられる。

ギリシャ語およびゲルマン語圏の類話は(2)と(3)の中間に存在し、Cの存在するものとしめないものがややなかばしている。

この亜型の設定によって、また伝播方向を東から西へと仮定することによって、イスパニアの類話でなぜ（口をきく木ではなく）歌う鳥が真実を語る役割をになっているかの理由が解明される。すなわちかつては *zoomorphysm* の信仰によって子供自からが鳥となって—といっても事実は霊媒的方法をとって—真実を語っていた過去の語りが、呪物搜索のモチーフの導入された後の語りにも痕跡として残っていたものであろう。

さて次にイスパニア文化圏の類話にもどり、筆者の知る限りの71の類話について、以上の三つの構成要素をさらに筆者の考えで細かい要素にわけその分布状態を調べてみよう。

A. 娘たちの会話

I 三人の娘が話し合っている。I a 姉は宮廷のパン職人との結婚を希望。I b 姉は宮廷の料理人との結婚を希望。I c 姉は宮廷の他の職人との結婚を希望。I d 年下の娘は王の妻になることを希望。I e 三人の娘は共に王との結婚を希望。I f 年下の娘は不思議な特徴を持った子供を産むことを約束。I g 姉たちは結婚によって貧しい生活から逃れられることを期待。I h 三人は姉妹である。

II 王は三人の話を立ち聞きする。II a 姉たちの望みを叶える。II b 妹の望みも叶えて結婚する。

B. 子供の取り替え

I 王(子)の結婚は宮廷の人の嫉妬を招く。I a 王妃の姉たちの嫉妬を招く。

II 妊娠している王妃を残して王は戦争に赴く。II a 王は遠くへ旅に出る。

III 産まれた子供に特徴がある。III a 出産回数は一回、III b 二回、III c 三回。III d 男児一人、III e 男児二人、III f 男児三人、III g 男児七人。III h 女児一人。

IV 宮廷の人は, IVa 王妃の姉は, IVb 他の婦人(魔女)の助けをかりて, IVc 子供を動物などととりかえる。IVd とりかえるものは犬, IVe 猫, IVf その他のもの。IVg 姉は王に異常な出産を告知。IVh 王に正しく知らずが, 手紙が書き換えられる。IVi 王は自分かもどるまで待てという。

V 子供を箱に, Va かごに入れて, Vb 川に, Vc 海に流す。Vd その他の処置。

VI 王は妻を二度, VIa 一度ゆるす。VIb 人の通る所に, VIc 幽閉する。VId その他の措置。

VII 子供たちは夫婦によって, VIIa その他の人によって, VIIb 実子と共に育てられる。VIIc 養親は庭師, VIId 漁師, VIIe 粉ひき, VIIf その他。

C. 呪物の捜索

I 養親の死。Ia 実子とけんかし, 実子が素姓を明かす。Ib 養親が教える。Ic 子供は家を出る。Id 実の親を捜しに行く。

II 王は狩に行き子供に会う。IIa 王は子供を招待する。IIb 子供は王を招待する。IIc 王宮のそばに行き住む。

III 老婆が現われ, 呪物を捜しに行けという。IIIa 姉たちの命を受けた者が捜しにやる。IIIb 姉たちが捜しにやる。IIIc それ以外の者が捜しにやる。IIId 目的は子供が幸福になるため, IIIE 子供を殺させるため, IIIf それ以外の目的で。IIIg 呪物は氷, IIIh 歌う木, IIIi 口をきく鳥, IIIj その他。

IV 三つの呪物を一つずつ順に捜す。IVa 三つの呪物を全部一度に捜す。IVb 兄は一人ずつ呪物の捜索に出発。

V 出発時生命指標を残す。Va 死ぬときび, または血に染まるナイフ, または刀。Vb その他。

VI 動物に出会う。VIa 老人に出会う。VIb 老婆または魔女に出会う。VIc 会った者が呪物をくれる。VId 道を教えるボールをくれる。VIe 危険をさける方法を教えてくれる。VIf 嘲ける声や呼ぶ声が聞こえる。

VII 教えられたことばに従い最初の二つの呪物入手。VIIa 教えに従わず失敗。VIIb 三つ目の呪物にのみ失敗。VIIc 声にふり向いて失敗。VIId 石に変えられる。VIIe 木に変えられる。

VIII 妹が出発。VIIIa 下の弟が出発。VIIIb 耳に栓を詰める。VIIIc 教えに従う。VIIId 後ろを振り向かない。VIIIe 鳥を捕える。VIIIf その他の呪物を捕える。

IX 出会った者の教えにより, IXa 鳥の教えにより, IXb 不思議な水のしずくをかけて, IXc 鳥の羽根でなでて, IXd 兄たちの魔法をとく。IXe 多くの人びとの魔法をとく。

D. 父王との再会

I 王が子供たちの家をたずねる。Ia 王が子供たちを招待する。Ib 子供たちが狩に行つて王に会う。Ic 子供たちが王を招待する。Id 鳥のすすめにより, Ie 真珠を詰めた料理が出される。If 姉たちは子供を毒殺しようとするが果たさない。Ig 鳥が真実を語る。Ih 子供たちが素姓を王に明かす。

II 王妃は幽閉場所から出される。IIa 王妃は魔法の水によって健康を取りもどす。

III 姉たちは, IIIa 他の迫害者は, IIIb 殺される。IIIc 追放される。IIId 幽閉される。

[イスパニアーイスパニア語]

—Andalucía—

- E1. Fernán Caballero : Cuentos, Oraciones, Adivinas y Refranes Populares e Infantiles (Biblioteca de Autores Españoles Vol. CXL 1961, Madrid, pp.206—211) El Pájaro de la Verdad (真実の鳥) (構成) (Aを欠く) (B) I (宮廷の人たち), II, IIIa, IIIc, IIIh, IV (宮廷の人たち), IVc, IVe, IVf(蛇), IVg, V, Vb, VIc, VII, VIIb, VIIc, (C) Ia, Ic, IIIc (つばめ; 子供たちは鳥のことばを理解する), IIIc, IIIg (多くの色の水), IIIi, IVa, VIa, VIb, VIc, VIe, VIIe, VIII, IX, IXb, IXc, IXd, IXe, (D) Ia, Ig, II.
- E2. E1. Folklore Andaluz (Revista), 1883, Sevilla, pp.305 y sig. El Agua Amarilla (黄色い水) (構成) (A) I, Ia, Ib, Id, Ig, Ih, II, IIa, IIb. (B) Ia, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf, IVg, Va, Vb, VI, VIc, VII, VIIc. (C) I, III, IIIc, IIIg, IIIh, IIIi, IVa, IVb, V, Va, Vb, VIa, VIc, VIe, VIg, VIIa, VIIc, VIId, VIIe, VIIb, VIIc, VIId, VIIf, IXb, IXc. (D) Ia, Ib, Ic, Ie, If, II, IIIc.

E3. M. Soupey : Contes et Légendes d' Espagne, Paris, 1925, pp. 115
y sig. —筆者未見—

—Extremadura—

E4. Sergio Hernández Soto : Cuentos Populares de Extremadura, 1886,
Sevilla (Biblioteca de las Tradiciones Populares Españolas, Tomo
X pp.175—185) El Papagayo Blanco (白いおうむ) (構成) (Aを欠
く ; 伯爵は貧しい娘と結婚) (B)II, IIIa, III d, IIIh, III (額に金の
星), IV (執事), IVg (不倫の恋を拒否され, 夫人が黒人奴隷と関係し
て黒人の子を産んだと知らせる), V, Vb, VIc, VII, VII d, (C)I,
Ib, IIIa, IIIe, IIIg (銀の水), IIIh (銀のドングリの枝), IIIi (お
うむ), IV, VIa, VIc (馬), VIe, VII, VIIb, VII d, VIII, VIIIc, VIIe,
IXd, IXe. (D)Ic, I g, IIIa (執事), IIIb.

E5. Marciano Curriel Merchán : Cuentos Extremeños, 1944, Madrid,
PP. 63—67 Los Tres Hijos del Sultán (サルタンの三人のむすこ)
前掲本文 (構成) (A)I, Ia, Ic (漁師), Id, I g, Ih, II, IIa,
IIb. (B)Ia, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVf (ライオン ; 肉塊)
IVg, Vb, VI, VII, VIIe. (C)I, Ib, IIIc (養親), III d, IIIg, IIIh,
IIIi, IVa, IVb, V, Va, Vb (死ぬと動かなくなるロザリオ), VIa,
VI f, VIc, VII d (黒い石), VIII, VII d, VIIe, VII f, IXb, IXd, IXe. (D)
I, I g, III, IIIb.

E6. ibídem. pp. 284—286 Las Hijas de la Modista (婦人服仕立屋の娘
たち) (構成) (A)I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B)Ia, IIIa, III d,
IIIh, IVa, IVc, IVd, V, Vc, VII, VIIb, VII d. (C)Ia, Ic, 再びB
のVII (老婆), I (老婆夫婦の死), IIIc (聖母), III d, IIIg, VIIIc, VIII f
(Dを欠く ; 聖母が子供たちと共に暮す).

—Asturias—

E7. Juan Menéndez Pidal : Poesía Popular, 1885, Madrid, pp. 342—344
nota (構成) (A)I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B)Ia, IIIc, IIIe,
IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, Vb, VI, VIc, VII, VIIc. (C)III, III d, IIIg
(黄色い泉の), IIIh, IIIi, IVb, V, Va, VIa, VI d, VIe, VI f, VIIa,
VIIc, VII d, VIII, VIIIc, VIII d, VIIe, VII f, IXb, IXd. (D)Ia, Ib, Ic,
Id, Ie, I g, Ih, II, III, IIIb.

E8. Aurelio Llano Roza de Ampudia : Cuentos Asturianos, 1925,

- Madrid, pp. 32—36 No. 6 El Pájaro que habla, el Arbol que canta y el Agua Amarilla (口をきく鳥, 歌う木, 黄色い水)(構成) (A) I, Ia, Ic (宮廷の肉屋), Id, Ig, Ih, II, IIa, IIb. (B) Ia, III (額に月と太陽のしるし), IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (肉の塊), IVg, V, Vb, VI, VIc, VII, VIIb, VIIc. (C) Ia, Ib, Ic, III, IIIf, IIIg (黄色い水), IIIh, IIIi, IVa, IVb, V, Va, Vb (死ぬと動かなくなるロザリオ), VIa, VIc, VIe, VIIa, VIIc, VIId, VIII, VIIIc, VIIIc, VIIIe, VIIIe, VIIIe, IXa, IXb, IXd, IXe. (D) I, Ia, Ib, Ig, II, IIa, III, IIIb.
- E9. *ibídem.* pp. 67—68 No. 19 Los Hijos de la Mar (海で拾った子)(構成) (A) I, Ie, If, Ih, II (貴族), IIb. (B) I (王の母后), IIa, III (ひたいに月と太陽のしるし), IIIa, IIIc, IIIh, IV (王の母后), IVc, IVd, IVg, IVi, V, Vc, VIc, VII, VIIb. (C) Ia, Ic, IIIc (聖母), IIIi (鳥をもらう). (呪物の捜索はない). (D) I, Ig, II, III (子供の頼みで赦される).
- E10. *ibídem.* pp. 68—69 No. 199 variante (前記の類話)(構成) (Aを欠く) (B) II, III (胸に金の星), IIIa, IIIc, IIIh, IV (母后), IVb, IVd, IVe, IVg, V, Vc, VII, VIIb, VIIc (行商人). (C) Ia, Ic, Id, IIc (王宮に仕える), IIIc (母后), IIIe, IIIg (踊る水), IIIh (歌うバラ), IIIi, VIIb (妖精の助けで持ち帰る; この部分簡略化). (D) Ia, Ig, II, IIIa, IIIb.

—Castilla—

- E11. Aurelio Macedonio Espinosa : *Cuentos Populares Españoles*, 1946, Madrid, pp. 250—252 No. 119 Los Siete Infantes(七人の王子), (構成) (A) I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B) I (王の母后), II, III (額に金の星), IIIa, IIIg, IV (母后), IVb, IVh, V, Vb, VIc, VII, VIIb, VIIe. (C) Ia, Ic, VIb, VIc (呪物の捜索が欠除). (D) Ia, Ih, II, IIIa, IIIc.
- E12. Aurelio Macedonio Espinosa : *Cuentos Populares de España*, 1946, Buenos Aires pp. 145—155 No. 42 El Pájaro que canta el Bien y el Mal (善悪を歌う鳥) (構成) (Aを欠く) (B) (夫は王ではなく軍人) Ia, II, IIIa, IIIc, IIIh, IVa, Vd (大きくなってから追い出

す), VIc (姉たちが), VIIa (子供と動物の取替えなし). (C) I, IIc, IIIa, IIIe, IIIj (不思議な魚), IIIh, IIIi, IV, V, Vb (死ぬとわき立つ水), VIa, VIe, VII, VIIb, VIIe, VIII, VIIIc, VIIIe, IX, IXd. (D) I, Ia, Ig, II, III, IIIb.

—León—

E13. Luis L. Cortés Vázquez: Cuentos Populares en la Ribera del Duero, 1955, Salamanca, pp. 75—77 No. 26 El Canario que hablaba (口をきいたカナリア) (構成) (A) I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B) Ia, II, IIIa, IIId, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVg, Va, Vb, VIb, VIc, VII, VIIb. (C) Ia, Ib, Ic, IIIc (聖母), IIIg, IIIi, IVa (双生児の兄妹は共に出発), VIe (IIIcの人物). (D) I, Ia, Ig, II, III, IIIb (呪物の搜索の部分を欠く).

—地方不明—

E14. José Sánchez Pérez: Cien Cuentos Populares, 1942, Madrid, pp. 338—346 No. 91 El Agua Amarilla (黄色い水) (構成) (A) I, Ia, Ib, Id, Ig, Ih, II, IIa, IIb. (B) Ia, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (コルク), IVg, Va, Vb, VI, VIc, VII, VIIf (番人). (C) I, III, IIId, IIIg, IIIh, IIIi, IVa, IVb, V, Va, Vb (死ぬとくもる鏡), VIa, Vid, VIe, VIf, VIIa, VIIc, VIId (黒い石), VIII, VIIIb, VIIIc, VIII d, VIII f, IXb, IXd. (D) Ia, Ib, Ic, Ie, If, II, III d.

—República Dominicana—

H1. Manuel J. Andrade: Folk-Lore from the Dominican Republic, 1930, New York, p. 206 No. 153 El Niño del Lucero en la Frente (額に星のある子) (構成) (A) I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B) Ia, III (額に金の星), III (黄金の髪), III (水晶のような目), IIIa, III d, IVa, IVc, IVe, IVg, Vb, Vid (生き埋め), VII, VII f (農民). (C が欠除) (D) Ih, II (しかし王妃はすぐに死ぬ).

H2. *ibidem*. pp. 207—208 No. 154 Las Hermanas Envidiosas (うらやましがった姉たち) (構成) (A を欠く) (B) Ia, III (額に金の星), IIIc, III f, IVa, IVc, IVe, VIa, Vid (追放する), VII, VII f (農夫). (C) Ic, Id, IIIc (老人), III f, III g (黄金の水), IIIh, IIIi, IVa, IVb,

の娘と結婚) I (宮廷の女たち), II, III (額に月と星), IIIa, IIIe, IV (宮廷の女たち), IVc, IVd, IVe, IVg, Va, Vb, VIc, VII, VIIb, VIId. (C) Ia, Ic, Id, III, IIIa, IIIf, IIIg (不思議な泉の水), IIIi (古い鳥), IVa, VI d (IIIの老婆が), VIe (同様に), VIIc, VIId, VIIe, VIIf, IX, IXb, IXe. (D) Ia, Ig, II, IIa, IIIa (女たち), IIIb.

—Colorado y Nuevo Méjico—

H8. Juan B. Rael : Cuentos Españoles de Colorado y de Nuevo Méjico Vol. I, sin fecha, Stanford, pp. 259—263 No. 123 El Arbol que canta (歌う木) (構成) (A) I, Ia, Ic (王の給仕人), Id, Ih, II, IIa, IIb. (B) Ia, II, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVd, IVe, IVf (肉の塊り), IVg, IVi, Vd (豚の小屋に捨てる), VI, VIb, VIc, VII, VIIc. (C) I, III, IIIf, IIIg, IIIh, IIIi, IVa, IVb, V, Va, VIa, VI d, VI f, VIIe, VII d, VIII, VIIIb, VIII d, VIIe, VIII f, IXa, IXb, IXd, IXe. (D) Ia, Ib, Ic, Id, Ie, Ig, II, III, IIIb.

H9. *ibidem*. pp. 263—267 No. 124 Las Hermanas Envidiosas (うらやましがった姉妹) (構成) (A) If. (B) Ia, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVb, IVc, IVd, V, Vc, VI, VIc, VII, VII d. (C) I, III, IIIf; IIIg (黄金の水), IIIh (音楽の梨), IIIi (七色の鳥), IV, IVb, V, Va, VIa, VI d, VIe, VIIa, VIIc, VII d, VIII, VIIIb, VIIIc, VIII d, VIIe, VIII f, IX, IXb, IXd, IXe. (D) Ic, Id, Ie (宝石をつめる), Ig.

H10. *ibidem*. pp. 267—269 No. 125 Las Tres Hermanas (三人姉妹) (構成) (Aを欠く) (B) Ia, IIa, IIIb, III d, IIIh, IVa, IVb, IVc, IVe, IVf (肉の塊り), Va, Vd (森に捨てる) (庭に捨てる), VIc, VII, VIIc. (Cを欠く). (D) Ia, Ib (庭師がたき木を売りに行つて), II, III, IIIb.

H11. José Manuel Espinosa : Spanish Folk-Tales from New Mexico, 1937, New York, pp. 15—17 No. 9 Los Niños Perseguidos (迫害された子供たち) (構成) (Aを欠く) (B) III (額に金の星; 黄金の髪), IIIe, IIIh, IVb (魔女が子供たちをねたんで盗む), Vb, VIc, VII. (C) I, III, IIIg (聖水), IIIi (緑の羽の), IIIh (笛), IVa, IVb, V, VIa, VIb, VI d, VIIa, VIIc, VII d, VIII, VIIIb, VIIIc, VIIe, VIII f, IX, IXb, IXd, IXe. (D) I, Ic, Ig, II, IIIa (魔女), IIIb.

- H12. Howard T. Wheeler : Tales from Jalisco, Mexico, 1943, Philadelphia, pp. 165—171 No. 70 El Agua de los Siete Colores (七色の水) (構成) (Aを欠く) (B) (夫は王ではなく資産家) I a (夫の姉), II a, III c, III e, III (黄金の髪), IV (義姉), IV b, IV c, IV e, IV f (豚とロバ); V, V c, VI, VI c, VII a (老婆), VII f (波に打上げられた真珠やダイヤを拾う村人). (C) I (知り合いの老人に子供のことを依頼) I b, II c, [III, III f, III g (七色の水), III h (音楽の木), III i のモチーフがあるが, 呪物を手にするのは父親]. (D) I, I a, I f, I h (第二の養親が), II, III, III b.
- H13. *ibídem.* pp. 181—184 No. 73 Los Tres Niños del Rey (王の三人の子供) (構成) (A) I, I a, I b, I d, I f, I h, II (王の警官が聞く), II a, II b. (B) I a, II, II a, III (黄金の髪; 象牙のような歯; 額に Viva el Rey の文字), III c, III e, III h, IV a, IV c, IV d, IV f (豚); IV g, V, VI, VI c, VII, VII d (Cを欠く). (D) I, I a, I h, II, III, III b.
- H14. *ibídem.* pp. 184—187 No. 74 La Fuente de Oro, el Pájaro que habla y el Arbol que canta (黄金の泉, 口をきく鳥, 歌う木) (構成) (Aを欠く) (B) III b, III d, III h, V d (母親が子供を捨てる), VII, VII c. (C) III, III f, III g (黄金の泉), III h, III i, IV a, V, V b (死ぬと枯れる花; 死ぬと切れる首飾り), VI a, VI e, VII a, VII c, VII d, VIII, VIII c, VIII d, VIII e, VIII f, IX a, IX b, IX d. (D) I b, I c, I d, I e (ダイヤ), I g, III (王妃), III b.
- H15. *ibídem.* pp. 189—192 No. 76 María la Cenicienta (灰かぶりのマリア) (構成) (シンデレラ型で始まる) (Aを欠く) (B) I a, III (黄金の髪), III b, III d, III h, IV a, IV c, IV d, IV f (豚), IV g, Va, Vc, VI a, VI b, VI d (生き埋めにする), VII, VII d. (C) I, III, III e, VI b, VI c, VI d, VI e, VI f, VII d, VIII a, VIII c, VIII d, VIII e, VIII f, IX, IX d. (D) I a, I g, II, III, III b (妹が失敗し兄が成功する点に特徴がある).
- H16. Alden Mason : Folk-Tales of the Tepecanos (Journal of American Folk-Lore Vol. XXVII) pp. 200—203 No. 22 Los Niños Coro-

- nados (冠を頂いた子供たち) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II (王の召使いが), II b. (B) I a, II a, III c, III e, III h, III (額に金の星), IV a, IV c, IV d, IV e, IV f (豚), V (スーツケース), V c, VI c, VII, VII d. (C) I, II c, III, III b, III e, III f, III h (全ての実の木, 全ての花の木), III i (全ての歌を歌う鳥), IV, IV b, VI a, VI b (妹が聖母に会う), VI e, VII, VII a, VII b, VII d, VIII, VIII c, VIII e, IX (聖母), IX c (魔法の棒), IX d. (D) I, I a, I g, II, III, III b.
- H17. Elsie Clews Parsons : Folklore of Santa Ana Xalmimilulco, Puebla, Mexico (Journal of American Folk-Lore Vol. XLV, 1932) pp. 352—355 No. 6 The Envious Sisters (うらやましがった姉たち) (構成) (異類女房で始まる) (Aを欠く) (B) I a, III c, III e, III h, IV a IV b, IV c, IV d, IV e, IV f (豚), IV g, V a, V c, VI, VI c, VII a (王自身によって発見される). (Cを欠く). (D) I h; II, III, III b.
- H18. Elsie Clews Parsons : Zapoteca and Spanish Tales of Milta (Journal of American Folk-Lore Vol. XLV, 1932) pp. 314—315 No. 19 The Envious Sisters (うらやましがった姉たち) (構成) (A) I, I a, I c (菓子職人), I d, I g, I h, II, II a, II b. (B) I a, III c, III e, III h, IV a, IV c, IV d, IV e, IV f (やぎ), IV g, V, V b, VI, VI c, VII a (老婆), VII f (単に貧しい老婆). (C) I b, III g (水晶の水), III h, III i, IV a, IV b, V, V b (死ぬとこわれる鏡; 死ぬとこわれる投石器; 死ぬとくもる鏡), VI a, VI e, VI f, VII a, VII c, VII d, VIII, VIII b, VIII c, VIII d, VIII e, VIII f, IX b, IX d. (D) I, I g, II (処罰なし).
- H19. Margaret Park Redfield : The Folk-Literature of a Yucatecan Town (Contribution to American Archaeology 3, 1937) pp. 36—37
—筆者未見—
- H20. Stanley L. Robe : Mexican Tales and Legends from los Altos, 1970, Berkeley, pp. 331—335 No. 91 El Agua de todos los Colores (あらゆる色あいの水) (構成) (A) I, I a, I b, I d, I h, II (王の女中が), II b. (B) I a, II, III (カールした髪), III (真珠の目), III c, III e, III h, IV a, IV c, IV d (黒犬と白犬), IV e, IV g, V b, VI, VI c, VII, VII f (単に老人夫婦). (C) I, III a, III e, III g (あらゆる色あいの水), III h (あらゆる果物のなる木), III i, IV, IV b, VI b, VI c,

VIe, VII, VIIb, VIIc, VIId, VIII, VIIIc, VIId, VIIe, VIIf, IXb, IXd, IXe. (D)I, Ic, Id, Ie, Ig, II, III, IIIb.

H21. ibídem. pp. 335—337 No. 92 Los Hijos del Rey (王子たち) (構成) (A)Id, If, (B)Ia, III (額に月と太陽), IIIb, IIId, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, Vd (隠者の庵に連れて行く); VIa, VIc, VIIa (隠者). (C)IIIb, IIIe, IIIg, IIIi (クー鳥), IV, VIa, VIe, VIIc, VIIe. (D) Ib (町で), Ia, Ig (前から飼われていたおうむが), II, III (助けた老婆のみ), IIIb. (全体に物語が単純化).

H22. ibídem. pp. 338—344 No. 93 Los Acoronados (冠を頂いた子供たち) (構成) (A)I, Ia, Ib, Id, Ih, II. (B)Ia, IIa, III (黄金の髪; 黄金の小指; 話すたびに口から花が落ちる), IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (兎), Vd (町の外へ), VI, VIb, VIc, VIIa (養育を老婆に依頼). (C)I, IIIa, IIIe, IIIg (水晶の水), IIIh (千の花のなる木), IIIi (千の色あいの鳥), IV, IVb (養親の魂), VIe, VII, VIII, VIIe. (D)I, Ia, Ih (養親の近所の人が), II, III, IIId.

H23. ibídem. pp. 345—349 No. 94 Los Acoronados (冠を頂いた子供たち) (構成) (A)I, Ia, Ib, Id, Ih, II, IIa, IIb. (B)Ia, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (ねずみ), Vb, VI, VIb, VIc, VII, VIIf (国王). (C)I, III, IIIf, IIIg (空に昇る水), IIIh (音楽をかなでる木), IIIi, IVa, IVb, V, Va, Vb (死ぬとくもる鏡), VIa, VIId, VIIa, VIIc, VIId, VIII, VIIIc, VIId, VIIe; VIII, IXa, IXb, IXd, IXe, (D)I, Ie (ダイヤ), Ig, II, III, IIIb.

H24. ibídem. pp. 349—359 No. 95 El Arbol que canta, el Pájaro que habla y el Agua de Oro (歌う木, 口をきく鳥, 黄金の水) (構成) (A)I, Ib, Ic (菓子職人), Id, If, Ih, II, IIa, IIb. (B)Ia, II, III (黄金の髪), IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, V, Vb, VI, VIc, VII, VIIc. (C)I, III (イスラム教徒の老婆), IIIf, IIIg (黄金の水), IIIh, IIIi, IVa, IVb, V, Va, VIa, VIId (IIIの老婆), VIIa, VIIc, VIId, VII, VIIb, VIIc, VIId, VIIe, VIIf, IXa, IXb, IXd, IXe. (D)Id, Ie, Ig.

—el Ecuador—

H25. Paulo de Carvalho-Neto; Cuentos Folklóricos del Ecuador, 1966,

Quito, pp. 251—260 No. 45 De Irás y nunca Volverás (行きて帰らざる城) (構成) (A) I, I a, I b, I e, I g, I h, II, II a, II b. (B) I a, III (額に金の星), III c, III e, III h, IV a, IV c, IV d, IV f (豚; 山から持ち帰った珍しい動物), IV g, V b, VI, VI c, VII a (老人), VII c. (C) II, II a, II b, III c, III f, III g, III h, III i, IV, IV b, V, V a, V b (死ぬと枯れる花; 死ぬとさびる指輪), VI a, VI d, VI e, VI f, VII a, VII c, VII d, VIII, VIII b, VIII d, VIII e, VIII f, IX b, IX d, IX e. (D) I a, I g, II, III, III b.

—la Argentina—

H26. Susana Chertudi : Juan Soldao. Cuentos Folklóricos de la Argentina, 1962, Buenos Aires, pp. 44—51 No. 14 La Luna y el Sol (月と太陽) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I (王妃の実母), II, III (額に月と太陽), III a, III d, III h, IV (王妃の実母), IV c, IV e, IV g, V, V c, VI c, VII a (親子に), VII b, VII d. (C) I a, I c, VI. (D) I, I a, I h, II, III a, III c. (呪物の搜索が欠除).

H27. Bertha Koessler Ilg : Cuentan los Araucanos, 1954, Buenos Aires, pp. 118—122, ¿ Dónde y cómo tuvieron Origen los Colibrís? (どこで、どうしてハチスズメは生まれたか?) (構成) (Aを欠く) (B) (夫はインカ), I a (姉一人), II, II a, III (黄金の髪), III a, III d, III h, IV a, IV b, IV c, IV d, V, V c (湖), VI d (追放する), VII, VII f (農民). (Cを欠く) (D) I, I h, II, III, III b (ハチスズメとなる, 動物由来譚).

—Chile—

H28. Rodolfo Lenz : Un Grupo de Consejas Chilenas, 1912, Santiago de Chile, pp. 59—67 La Luna y el Sol (月と太陽) (構成) (A) I, I d, I f, I h, II, II a, II b. (B) I a, II, III (黄金の髪; 額に月と太陽), III a, III d, III h, IV a, IV b, IV c, IV d, V, V c, VI c, VII, VII b, VII d. (C) I a, II c, III b, III e, III g (神の花の水), III h (あらゆる鳥の歌う枝), III i (占いおうむ), IV, VI a, VI c, VI e, VII, VII a, VII b, VII c, VII d, VIII, VIII c, VIII d, VII e, IX d, IX e. (D) I, I a, I g, II, III, III b.

H29. Ramón A. Laval : Cuentos Populares en Chile, 1923, Santiago

- de Chile, pp. 80—92 No. 13 El Loro Adivino (占いおうむ) (構成)
 (A) Ia, Ic (パイ職人), Id, If, Ih, II, IIIa, IIb. (B) Ia, II,
 III (額に月と星と太陽), IIIa, IIIe, IIIh, IVa, IVd, IVg, V, Vb,
 VIc, VIIf (農民). (C) I, Ib, Ic, Id, III, IIIf (親を見つけるた
 め), IIIg (生命の水), IIIh, IIIi (占いおうむ), IVa, IVb, VIa (盲
 目の王), VIc (IIIの老婆が), VIe, VII (次兄が最初の一つを得る),
 VIIa, VIIb (次兄が二番目で失敗), VIIc, VIII, VIIIc, VIIIe, IX, IXb,
 IXd, IXe. (D) I, Ig (占いおうむが), II, IIa, III, IIIb.
- H30. Yolando Pino Saavedra : Cuentos Folklóricos de Chile, Tomo II,
 1961, Santiago de Chile, pp. 99—102 No. 95 El Sol y la Luna (太
 陽と月) (構成) (A) I, Ie, If, Ih, II, IIb. (B) Ia, III (額に月
 と太陽), IIIa, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVg, V, VIc, VIc (流
 す), VIIa (隠者), (Cを欠く) (D) I (王が娘と知らず恋し, 求婚す
 る), Ih, II, III (赦される).
- H31. *ibídem.* pp. 102—109 No. 96 María Ignacia y Juancito (マリア・
 イグナシアとホアンシート) (構成) (Aを欠く) (B) (魔女が王妃の子
 供を捨てる), IIIa, IIIc, IIIh, IVa (魔女), IVc, IVd, IVg, Vi, VIa,
 VII, VIIb, VIIf (木こり). (C) Ia, Ic, IIc (王の庭師の家に養われ
 る), III (魔女), IIIe, IIIg (光る水), IIIj (とぶ魚), IIIh (全ての実
 のなる木), IV, IVb (聖母マリアに), VIc, VIe, VIIa, VIIc, VIII, IX,
 IXd. (D) I, Ig (真実をいう者), II, IIIa (魔女), IIIb.
- H32. *ibídem.* pp. 109—112 No. 97 La María Ceniza (灰かぶりのマリ
 ア) (構成) (前半部はMT510A—シンデレラ型—その中にIfのモチ
 ーフあり) (B) (主人公は騎士の妻) I (産婆), III (額に月と太陽),
 IIIa, IIIc, IIIh, IV (産婆), IVc, IVd, IVg, V, Vb (用水路),
 VIc, VII, VIIe (Cを欠く) (D) Ic, Ih, II, IIIa (産婆), IIIb.
- H33. *ibídem.* pp. 198—211 No. 126 La Mata de Albahaca (メボウキの
 株) (構成) (前半部はMT879—メボウキの株型—) (B) (王は末娘と
 結婚) Ia, IIIa, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVg, Va, Vb,
 VI, VIc, VII, VIIf (農夫). (Cを欠く). (D) I (王が狩に行って)
 (子供の衣服によって素姓を知る), II, III, IIIb. (このあとMT875
 一賢い農夫の娘型—に続く).

H34. *ibidem*. Tomo III, 1963, Santiago de Chile, pp.295—302 No. 261
Los Tres Infantes (三人の王子) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II
 (王の羊飼), II b. (このあとMT875—賢い農夫の娘型—が続く). (B)
 II a, III (金銀の冠を頂く, ひとり占いの能力), III a, III f, IV (王が
 頼んだ老婆), IV c, IV d, IV g, V, V b (運河), VI c, VII, VII b, VII e
 (C) I a, I c, I d. (D) I a, I b (王が狩に), I f, I h, II, III a,
 III b.

(ユダヤイスパニア語)

- J1. C.M. Crews : *Recherches sur le Judéo-Espagnol dans les Pays Balkaniques*, 1935, Paris, pp. 63—65 Las Criaturas de Oro (黄金の子供)
 (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I (ジプシーの召使い),
 III a, III e, III (黄金の子供), IV (ジプシー), IV c, IV d, IV g, V d
 (埋める), VI d (追放する). (Cを欠く) 埋めた所から木がはえ, ジ
 プシーがその木を切ってベッドにし, さらにそれを燃やすが, その火
 花の中から羊が現われ, それを殺すと, その腹わたの中から子供二人
 が復活する. (D) I a, I h, II, III a (ジプシー), III b.
- J2. Arcadio Larrea Palacín : *Cuentos Populares de los Judíos del Norte de Marruecos*, Vol. I, 1952, Tetuán, pp. 118—122 No. 34 Las Hermanas Envidiosas (うらやましがった姉たち) (構成) (A) I, I a, I b, I d, I h, II, II a, II b. (B) I a, III c, III e, III h, IV a, IV c, IV f (変なもの), IV g, V d (庭に捨てる), VI, VI b, VI c, VII a (親子), VII c. (C) I, II, II a, III, III d, III g (銀色の水), III h, III i, IV a, IV b, V, V a, V a, V e, V f, V a, V c, V d, V e, V c, V d, V e, V f, V g, V h, V i, V j, V k, V l, V m, V n, V o, V p, V q, V r, V s, V t, V u, V v, V w, V x, V y, V z. (D) I c, I d, I e, I g, II, III, III b.
- J3. *ibidem*. pp. 250—256 No. 85 El Agua Verde, la Caña que tañe y el Pájaro que canta (青い水と, 鳴りひびく芦と歌う鳥) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II a, II b. (B) I a, III (額に金の星), III c, III e, III h, IV a, IV c, IV d, IV g, V d (屋上に捨てる), VI, VI c, VII. (C) I, III c (王の家来が), III e, III g (魚のいる青い水), III h (芦), III i, IV a, IV b, V, V b (死ぬと枯れるヤシの木), V a, V e, V a,

VII d (緑の石), VIII, VIII e, VIII f, IX a, IX c, IX d, IX e, (D) I c, I d, I e, I g, II, III, III b.

〔ガリシア語〕

G1. Laureano Prieto : *Contos Vianeses*, 1958, Vigo, pp.82—87 No. 14

Santa Dora (サンタ ドーラ) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I a, II, III (額に金の星), III a, III d, III h, IV a, IV c, IV e, IV g, V, V b, VI c, VII, VII b, VII e. (C) I a, I b, I c, III a, III g (貴重な泉), III h (すばらしい音楽の木), III i, IV, V, V b (死ぬと血が出るパン), VI a (埋葬を待つ死体), VI d, VI e, VII, VII a, VII b, VIII, VIII c, VIII e, IX, IX b, IX d. (D) I, I g, II, III, III b.

G2. *ibídem.* pp. 88—90 No. 15 Flore e Flora (フローレとフローラ)

(構成) (前半部はMT 879—メボウキの株型—) (A) I f. (B) I a, II, III (額に月と太陽), III a, III d, III h, IV a, IV c, IV e, IV g, V, V b, VI c, VII, VII d. (C) III b, III h (花の木等, 他の株のは特記なし), IV, VI a (教父が), VI e, VIII c. (D) I, I a (王が印によって子供であることを知る), II, III, III b.

G3. Lois Carré Alvarellos : *Contos Populares da Galiza*, 1968, Porto,

pp. 58—59 No. 9 Fillas do Zapateiro (くつ屋の娘たち) (構成) (A を欠く) (王子が狩の途中水を求めて娘たちの家に立ちよる) (B) I a, III a, III d, III h, IV a, IV g (死産だという), V, V b, VII, VII b, VII e, (C) I a, I c, III (善良な魔女の家に滞在). (D) I a (王宮に出入りする魔女を通じて王はわが子だと知る), I f, III, III b. (王妃の迫害を欠く).

G4. Xosé Ramón e Fernández-Oxea : *Santa Marta de Moreiras*, 1968,

Vigo, pp. 366—368 (無題) (構成) (A を欠く) (B) I a, III c, III f, IV a, IV c, IV e, V a, V b, VI, VI c, VII, VII f (他国の領主). (C) III i (美しい鳥), IV b, V, V a, V b (死ぬと血がつく鏡), VI a, VI d, VI e, VI f, VII a, VII c, VII d, VII a, VIII b, IX d, IX e. (D) I c (魔法をといてもらった者たちの感謝の宴会に), I h, II.

〔ポルトガル〕

P1. Theophilo Braga : *Contos Tradicionaes do Povo Portugues*, sin fecha,

- Lisboa, pp. 85—86 No. 38 O Rei-Escuta (立ち聞き王) (構成) (A) I, I a, I b, I d, I g, I h, II, II a, II b. (B) I a (姉が王に中傷, 王は妻を海に投げようとしたが, 下男が真相を告げて, すぐに判る), (D) II, III, III c.
- P2. *ibidem.* pp. 86—89 No. 39 As Cunhadas do Rei (王の義理の姉) (構成) (A) I (宮廷の料理人と給仕人), I d, I f, I g, II, II a, II b. (B) I b, III (額に金の星), III a, III e, III h, IV a, IV c, IV d, V a, V b, VI a, VI b, VI d (生き埋めにする), VII, VII e (B) I, II c, III a, III e, III g (千の泉の水), III h (血を吹く木), III i (おうむ), IV (始めの一つは別), IV b, VI b (聖母, 妹のみ会う), VII d, VIII, VIII c, VIII d, IX d. (D) I a, I f, I g, II, III.
- P3. Alvaro Rodríguez de Azevedo: Romanceiro do Archipelago da Madeira, 1880, Funchal, pp. 391—431 Os Incantamentos da Grande Fada Maria (偉大な仙女マリアの魔法) —筆者未見—
- P4. Consiglieri Pedroso: Contos Populares Portuguezes (Revue Hispanique XIV pp. 194—195) No. 37 Os Tres Meninos que tinham uma Estrella de Ouro na Testa (額に金の星のある三人の子) (構成) (A) I, I f (占い者が占う), I h, II, II b. (B) I a, III (額に金の星), III a, III f, IV a, V a, V c. (以下記載なし, 断片).

[ブラジル]

- B1. Sílvia Romero: Contos Populares do Brasil, 1954, Rio de Janeiro, pp. 36—42 No. 2 As Tres Coronadas (冠を頂いた三人の子) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I a, III (冠を頂く), III e, III f, IV a, IV c, IV e, IV f (がま, コブラ), IV g, V, V c, VI b, VI d (生き埋め), VII, VII d. (このあと, MT 709—白雪姫型—のモチーフがはいり, 姉が子供を毒リンゴで石に変える。次いで漁師の妻は魔法を解く薬を求めて旅に出る MT 461—山神と童子型)。 (D) I a, II, III, III b.
- B2. Luís da Câmara Cascudo: Contos Tradicionais do Brasil, 1967, Rio de Janeiro, pp. 148—154 A Rainha e as Irmãs (王妃とその姉たち) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I a, II, II a, III

(額に月と太陽), IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVb, IVc, IVf (がま), IVg, Vc, VI, VI d (追放), VII, VII f (獵師). (B)IIIc (養親), IIIg (生命の水), IVb, VI d, VIII, IXb, IXd (姉たちを助けて子供たちを捨てた老婆が子供たちに素姓を知らせる). (D)I h, II, III, III d.

[ベルデ岬諸島—クレオールポルトガル語]

- V1. Elsie Clews Parsons : Folclore do Arquipélago de Cabo Verde, 1968, Lisboa, pp. 599—608 No. 97 As Irmãs Invejosas (うらやましがった姉たち) (構成) (A) I, I b, I c (王の召使い), I d, II (王の狩人が), II a, II b. (B) I a, III (額に金の星), IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (ねずみ), IVg, V, V b, VI, VI d (生き埋め), VII, VIIc. (C) I, II, II a, III, IIIf, IIIg (黄金の水), IIIh, IIIi, IV, IVb, VI a, VI f, VIIc, VII d, VIII, VIII b, VIIIc, VIII d, VIII e, VIII f, IXb, IXd. (D) I, I g, II, III, III b.
- V2. *ibidem.* pp. 609—611 No. 97—a Variante (上記の類話) (構成) (A を欠く) (B) I a, IIIa, IIIf, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf (豚), Vc, VIIa (老婆), VII d. (D) (王の女中が子供たちに会う) I, I a, I h, II, III, III b.

[カタロニア語]

- C1. Francesc Maspons i Labrós : Contos Populars Catalans, 1952, Barcelona, pp. 48—52 Els Fills del Rei (王子たち) (構成) (A) I, I e, I f, I h (王は獵に行く), II, II b. (B) I a, II, III (額に昼と夜の星), IIIa, III d, III h, IVa, IVc (ジプシーの子ととりかえる), V, Vc, VI d (殺す), VII, VII d. (C) (「捨てよ」との声を聞いて捨てる) IIc, III b, III e, III h (美しいチューリップ), VI b (母の魂), VI e VIIIc. (D) I a, I g (白い鳩が現われて), III, III b.
- C2. *ibidem.* pp. 86—94 L' Aigua de la Vida (生命の水) (構成) (C の部分は先に語られる IIIg (生命の水), IIIh (香りの木), IIIi). (B) I a (王の母后), II, III b, III d, III h, IV (王の母后), IVc, IVf (半分獣で半分人), IVg, V, V b, VIc, VII, VII d. (D) I b, I g (口をきく鳥が語る), II, II a, III (王の母后), III b.

- C3. Joan Amades : Folklore de Catalunya, Rondallística, 1950, Barcelona, pp. 242—243 No. 98 El Nen i la Nena Bonics com el Sol i la Serena (太陽と夜露のように美しい男の子と女の子) (構成) (A) I, I f, II, II b. (B) I a, II, III (太陽や夜露のように美しい), III a, III d, III h, IV a, IV c, IV d, IV e, IV g, V d (森に捨てる), VI c, VII, VII f (猟師). (C) III b, III e, III g (生命の水), III h (幸福のリング), III i (スズメ), IV, VI a (隠者), VI c (鏡), VI e, VII (最初の一つに成功), VII b (二つ目に), VIII, VIII c, VIII e, VIII f, IX a, IX b, IX d, IX e. (D) I a, I g, II, III, III b.
- C4. ibídem. p. 372 No. 153 La Taronja Encantada (魔法のオレンジ) (構成) (A) I, I f, I h, II, II b. (B) I a, II, III (額に星; 歩くとバラが落ちる), III b, III e, III h, IV g (死産だと知らず), V, V b, VII, VII c. (C) I, I b, II c, III, III f, III h (オレンジの実), III i (千の色の鳥), IV b, V, V a, V b (死ぬと動かなくなるロザリオ), VI f, VII c, VIII, VIII d, VIII e, IX d (木にさわって), IX e. (D) I b, I g, II, III, III b.
- C5. ibídem. pp. 436—439 No. 177 Els Tres Fills del Rei (王の三人の王子) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I a, II, III (額に金の星), III a, III e, III h, IV a, V, V b, VII, VII b (その後に生まれる), VII f (羊飼い). (C) I a, I b, I c, I d, II c, III a, III e, III i (七つのことばを話す鳥), IV b, VI b, VI e (鏡), VII a, VII d, VIII, VIII c, VIII e. (D) I a, I g, III, III b. (王妃の迫害なし).
- C6. ibídem. pp. 446—447 No. 180 El Nen i la Nena Bonics com un Sol (太陽のように美しい男の子と女の子) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II, II b. (B) I (王の母后), II, III (太陽のように美しい), III a, III d, III h, IV (王の母后), IV c, IV d, IV e, IV g, V a, V c, V i c (母后が), VI, VII d. (C) III, III e, III h (最も美しい木), III i, III j (最も美しい石; 最も美しい花), IV, VI (口をきく魚), VI e, VII, VII b, IX a, IX b, IX d, IX e. (D) I a, I g, III a (母后), III d.
- C7. Pau Bertran i Bros : Rondallari Catalá, 1905, Barcelona, No. 33
—筆者未見—
- C8. ibídem. No. 193 —筆者未見—

C9. Joan Vila : Rondales Populares Catalanes, 1909, Barcelona, Vol. I
No. 33 一筆者未見—

〔バレアレス諸島〕

- Ba1. Antoni María Alcover : Rondalles Mallorquines, Tom. VI, 1953,
Palma de Mallorca, pp. 93—111 S' Aigo Ballant i es Canariet Parlant
(踊る水と口をきくカナリア) (構成) (Aを欠く) (B) (王が貧しい娘
と結婚) I (母后), II, IIIc, IIIe, IIIh, IV (母后), IVc, IVf (半
人半獣), IVg, IVi, V, Vb, VI, VIc, VII. (C) IIIa (母後の命を受け
て), IIIe, IIIg (踊る水), IIIi (カナリア), IV, VIb, VII. (D) Ia,
I g, II, IIIa (母后), IIIb.
- Ba2. ibídem. Tom. XI, 1968, Palma de Mallorca, pp. 39—48 La Reina
Catalineta (王妃カタリネタ) (構成) (A) I, I e, I f, I h, II (王
の猟師が), II b. (B) I (母后), II, III (額に星; ほほにバラ), IIIa,
IIIe, IIIh, IV (母后), IVc, IVf (獣), IVg, IVi, V, Vb, VIe (母
后が), VIIa (老婆; 女中から箱をもらい). (Cを欠く) (D) I b (養親
が真実を知らず), II, IIIa (母后), IIIb.
- Ba3. ibídem. Tom. XII, 1954, Palma de Mallorca, pp. 101—123 La Bona
Reina i la Mal Cunyada (善良な王妃と邪悪な姉たち) (構成) (A
を欠く) (B) Ia (二人娘; 姉と結婚; 妹が嫉妬), II, IIIa, IIId, IIIh,
IVa (妹), IVc, IVd (黒い毛むくじゃらの), IVg, V, Vb, VIc (妹
が), VII, VII d. (C) IIIa, IIIe, IIIg (七色の水), IIIh (全ての果物のな
る木), IV, VIb, VIe, VII. (D) Ia, I h (養親がいう), II, III, III d.
- Ba4. ibídem. Tom. XIV, 1952, Palma de Mallorca, pp. 34—54 S' Aucellet
de ses Set Llengos (七枚の舌を持つ鳥) (構成) (A) I e, I f, I h, II,
II b. (B) Ia, II, III (額に星), IIIa, IIIe, IIIh, IVa, IVb, IVc,
IVf (怪物), IVg, V, Vb, VIc, VII, VII b, VII f (羊飼い). (C) Ia,
I c, II c, IIIa, IIIe, III i (七枚の舌を持つ鳥), IVb, VIb, VIe,
VIIa, VII d, VIIIa, VIIIc, VIIIe, IXa, IXd. (D) Ia, I g, II, III, III d.
- Ba5. ibídem. Tom. XV, 1965, Palma de Mallorca, pp. 80—97 S' Abre
de Musica, sa Font d' Or i s'Aucell qui parla (音楽をかなでる木
黄金の水, 口をきく鳥) (構成) (A) I, I b, I c (菓子職人), I d,

I h, II, IIa, IIb. (B) I a, II, III (金の糸のように美しい), IIIc, IIIe, IIIh, IVg (死産と告げる), V, Vb, VI, VIc, VII, VIIc. (C) III, IIIf, IIIg (金の泉), IIIh, IIIi, IVb, VIb, VIe, VI f, VIIa, VIIc, VIId, VII, VIIb, VIId, VIIe, VII f, IXa, IXd. (D) I, I g, II, III, IIIb.

以上の調べえた71話についてのモチーフの分布状況はおよそ次の通りである。

| | | | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| (A) | I 41/71 | I a 15/71 | I b 14/71 | I c 9/71 | I d 20/71 |
| | I e 21/71 | I f 31/71 | I g 9/71 | I h 40/71 | II 44/71 |
| | II a 21/71 | II b 42/71 | | | |
| (B) | I 7/71 | I a 52/71 | II 29/71 | II a 10/71 | III 46/71 |
| | III a 33/71 | III b 6/71 | III c 25/71 | III d 26/71 | III e 34/71 |
| | III f 6/71 | III g 1/71 | III h 54/71 | IV 13/71 | IV a 48/71 |
| | IV b 11/71 | IV c 54/71 | IV d 41/71 | IV e 31/71 | IV f 24/71 |
| | IV g 38/71 | IV h 4/71 | IV i 2/71 | V 33/71 | V a 10/71 |
| | V b 31/71 | V c 18/71 | V d 10/71 | VI 25/71 | VI a 6/71 |
| | VI b 8/71 | VI c 43/71 | VI d 11/71 | VII 51/71 | VII a 11/71 |
| | VII b 17/71 | VII c 12/71 | VII d 20/71 | VII e 6/71 | VII f 16/71 |
| (C) | I 22/71 | I a 17/71 | I b 10/71 | I c 17/71 | I d 7/71 |
| | II 3/71 | II a 3/71 | II b 1/71 | II c 12/71 | III 22/71 |
| | III a 10/71 | III b 7/71 | III c 10/71 | III d 8/71 | III e 19/71 |
| | III f 14/71 | III g 37/71 | III h 36/71 | III i 41/71 | III j 3/71 |
| | IV 17/71 | IV a 19/71 | IV b 27/71 | V 18/71 | V a 11/71 |
| | V b 12/71 | VI 2/71 | VI a 29/71 | VI b 15/71 | VI c 7/71 |
| | VI d 15/71 | VI e 34/71 | VI f 13/71 | VII 11/71 | VII a 24/71 |
| | VII b 10/71 | VII c 21/71 | VII d 30/71 | VII e 2/71 | VIII 32/71 |
| | VIII a 4/71 | VIII b 10/71 | VIII c 34/71 | VIII d 24/71 | VIII e 35/71 |
| | VIII f 25/71 | IX 11/71 | IX a 13/71 | IX b 27/71 | IX c 2/71 |
| | IX d 34/71 | IX e 22/71 | | | |
| (D) | I 25/71 | I a 34/71 | I b 11/71 | I c 15/71 | I d 9/71 |
| | I e 12/71 | I f 5/71 | I g 42/71 | I h 16/71 | II 55/71 |
| | II a 5/71 | III 44/71 | III a 12/71 | III b 43/71 | III c 2/71 |

以上のモチーフの分布状況で、その分布瀬度と、各モチーフ間の有機的関連性と補完性を考慮に入れるなら、イスパニア文化圏の標準型は次のようなモチーフを含むと考えられる。

(A) I, Ia, Ib, Id, If, Ih, II, IIa, IIb. (B) Ia, II, III, IIIc, IIIe, IIIh, IVa, IVc, IVd, IVe, IVf, IVg, V, Vb, VI, VIc, VII, VII d. (C) I, III, IIIf, IIIg, IIIh, IIIi, IVa, IVb, VIa, VIe, VIIa, VII d, VIII, VIIIc, VIIIe, VIII f, IXb, IXd, IXe. (D) I, Ia, Ig, II, III, IIIb.

次に、著しい地方的特性を示す^{サブタイプ}亜型の有無であるが、次の二つの特徴が特に目立ったものといえよう。

(a) 王妃の出産が三回で〔(B)IIc〕で王子が二人、王女が一人でその後の物語が展開する亜型と、出産が一回で、男女の双生児または三つ児が産まれる亜型である。前者はアルゼンチンとチリーを除いたイベロアメリカ、モロッコのユダヤ人に主として分布するのに反し、後者はイベリア半島とアルゼンチン、チリー、バルカン半島のユダヤ人に分布するようである。恐らく後者の方がより古い型で、前者は合理化またはモチーフの三回繰返しという昔話の原則による敷衍化の結果であろう⁹⁾。

(b) これは前者ほど顕著な分布上の特徴を持っていないが、(A)の要素を持つ類話について、Ia, Ib, Ic という一連のモチーフを持つ(姉たちが王のパン職人や料理人との結婚を望み、妹のみが王との結婚を望む)亜型(14話)とIeのモチーフを持つ(三人姉妹共に王との結婚を希望)亜型(20話)の対立である。イベリア半島についていえば、概して前者は西方に、後者は東方に密に分布し、特にカタロニア語の類話はほとんどIeであるところから、その伝播の中心はカタロニア地方にあったものと思われ、発生的には後期のものと考えられる。

このあたりで現代の口承昔話を離れ、以上の四つの基本的な要素を含んだ物語が世界の過去の記載文芸の中にどのように見いだされるかを見てみよう。最も古いと思われるものは共に十六世紀に属すると思われる次の三つの物語である。

(1) イタリアの Giambattista Straparola の *Le Piacevoli Notti* (楽しき夜)の第四日第三話

三人姉妹が話し合い、妹はもし王と結婚できれば金髪で首に金の鎖をかけ、額に金の星をつけた三つ児を産むと約束する。王は妹と結婚。王の不在の間に、王妃は約束通りの三つ児（二人の男児と一人の女児）を産むが、姑と二人の姉は赤児を犬の子と交換し王に告げ口する。王妃は獄につながれ、赤児は箱に入れて川に流される。粉挽きが赤児を拾い妻と共に育てる。夫婦は子供の髪からこぼれ落ちる真珠で金持ちになる。子供は成功し都へ上る。王はかれらに会って王宮へ招待する。姉たちは女の子に「踊る水」を要求する。兄は鳩の助けで手に入れる。次に「歌うリンゴ」を要求するが、うまく手にはいる。最後に「歌う鳥」を要求し、兄たちは失敗して石に変えられる。妹が自分で兄を捜しに行き、「歌う鳥」を見つけ、兄の魔法を解く。鳥は王に真実を知らせ、母は解放され、二人の姉と姑は火刑に処せられる。

(2) ポルトガルの Gonzalo Fernández Trancoso の Contos e Histórias de Proveito e Exemplo (教訓物語集) 第二部第七話

三人姉妹が話し合い、妹は王と結婚できれば、黄金のような二人の男の児と、白銀のような女の児を産むと約束する。妻を捜していた若い王はそれを聞いて妹と結婚する。嫉妬した姉は悪魔にそそのかされ、王妃が怪物を産んだと王に告げる。王は王妃を追放し、子供は流される。子供は漁師に拾われて成人する。王は旅行して子供たちに会い王宮に招待する。拾った漁師に真相を聞いて、二人の姉は海に投じられ、王妃は捜し出される。

(3) Galland 版「千夜一夜物語」の「妹を養やんだ二人の姉の話」

三人姉妹の妹がシャーに髪の毛が半ば金で半ば銀であり、口を開くたびにバラの花がこぼれ、真珠の涙を流す王子を産むことを約束する。子供を産むと姉は死んだ犬の子ととりかえ、子供をかごに入れて川に流す。次の年、王妃が王子を産むと猫にとりかえ、三年目には女の児を産むがハトにとりかえられる。王は王妃を監禁し、王子たちは庭師に養われる。老婆のすすめで、「口をきく鳥」「歌う木」「踊る水」を二人の兄は捜しに行くが、途中で会った老人の助言に従わず石に変えられる。妹は兄を捜しに行き、呪物を手に入れた後、兄の魔法を解く。ある日、兄は王に出会い鳥のすすめに従って王を招待し、真珠の詰まったきうりを料理する。鳥が真相を話し、姉は殺される。

以上の三話はいずれも現代の昔話に酷似し、すでに十六世紀にこの伝承が現在に近い形で語られていたことがわかる。ただこの中の Trancoso のものには呪物捜索の要素がなく、これを中間に置くことによって更に古い伝承、即ち、「白鳥の騎士」説話、すなわちかの「ローエングリーンの伝説」との関連が浮かび上がる。「白鳥の騎士」説話の最も古く完全なものは十二世紀 Jnan de Alta Silva による Historia Septem Sapientum によるものであるが、次に十四世紀初期に書かれた La Gran Conquista de Ultramar (海外の大征服記) によりイスパニアにはいった形を次に示そう。(第47章～第68章)

王女 Isomberta は好まぬ結婚を避けて王宮を逃げ出し、Eustacio 伯爵の領地に上陸し、伯爵に見いだされて結婚する。伯爵は戦に行き、夫人は七つ児を産む。天使は子供の首に金の鎖をかける。出産を告げる手紙を姑は、七匹の犬の子を産んだと書きかえ、伯爵の生かしておくようにとの手紙を書きかえて、「子供を殺せ」と書き、子供を下男に渡してで殺させる。下男は哀れに思って森へ捨て、隠者が拾って育てる。成人の後、王は森へ狩に行つて子供たちに会う。王の母親は再び家来を森にやつて子供を殺そうとするが、森の沼では白鳥の姿をした子供たちが泳いでいる。家来は金の首輪を盗んで人間にもどれないように、それをこわそうとするが果たさない。首輪を盗まれなかった子供が天使の知らせで事件を知り、王や母親と争つて勝ち首輪をとり返す (Biblioteca de Autores Españoles Vol. 44 pp. 26～38)。

この「白鳥の騎士」説話と「真実の鳥」の昔話の関連は否定できず、先にのべたように、これを核として昔話が形成されていったものと考えられる。『白鳥の騎士』説話そのものは、さらに中国、印度の古代物語にその源泉が推定されるが、あまりにも本題を離れるので省略しよう。

最後にこの昔話のいくつかのモチーフについてその意味を簡単にのべ本稿を終りたい。

最重要モチーフはあくまで中心となる貴種流浪譚 (流され王) であろう。このモチーフを持つ伝説は最初にのべた母親ダナエの父王によって流された英雄ペルセウスや、パピルスのかごに入れて流されパロの娘に拾われたモーゼのほか、アイルランドの太陽神ルグ、インドの太陽神スーリアの子の英雄カルナ・バビロニアのサルゴン大王、琉球王となった金松兼

とその母、思樽（遺老説伝）、継母に流された二所権現の縁起譚や大隅正八幡宮の縁起として語られる震旦の大王の娘オオヒルメ、蚕神伝説として語られる天竺の大王の娘、金色姫（常陸国蚕影山縁起・蚕の和讃）など洋の東西に数限りなく存在する。（その意味では箱の中に幼児を入れて川や海に流すのは全くわが国の「うつぼ舟」と同じ意味を持つであろう）。従来、川上や海の彼方の彼岸の国から流れて来る「まれ人信仰」や「太陽の子が海に流される」点が強調されているが、それに加えるに、母処婚制による子供の母方での成長や、mal de ojo（邪視）を逃がれるための里子の慣習といった社会的な要件もこの種の話の育て、伝えるのに力があつたと思われる。

次に「真実の鳥」については鳥の鳴き声を聞いて占トをした鳥占の存在が示唆されるし、その占トには鳥の鳴声を意味ある言葉に翻訳するシャーマンの存在が必要である。流される子供の中には妹が不可欠であり、妹が鳥を捕え、鳥を使う重大な役割を果たすのはこの意味では当然であろう。今後はこの話を生み出し、また伝えた地方の民俗と共にこういった問題を解明しなければならないと考えている。

註)

- 1) この型の中世伝説については、Frederic C. Tubach: *Index Exemplorum, A Handbook of Medieval Religious Tales*, 1969, Helsinki 第3421番「姑が嫁の子殺しを中傷」として2話が記録されている。
- 2) 例えば、日本では25話（関敬吾：日本昔話集成、笑話 pp. 525—530）、イスラエルで7話（Heda Jason: *Types of Jewish-Oriental Oral Tales*, FABULA 7, 1964—1965, p. 160）
- 3) 例えば、ルーマニアでは22話が67話に（Ovidiu Bîrlea: *Antologie de Proza Populară Epică, București, Vol. II, p. 459*）、フランスでは29話が35話に増加している。（Paul Delarue et Marie-Louise Tenèze: *Le Conte Populaire Français, Paris, Vol. II, pp. 633—648*）
- 4) Stith Thompson & Warren Roberts: *Types of Indic Oral Tales; India, Pakistan and Ceylon*, Helsinki, 1960 による。
- 5) アフリカの部分は Aurelio Espinosa の *Cuentos Populares Españoles* の解説の記述を借りた。ただ、Espinosa のアジア、アフリカの材料の蒐集は少なく、9話という数字は論拠としては少々心もとない。
- 6) この両亜型と、前述のイスラム・スラブ型と、ロマンス話型とのかかわりが当然問題となる。